

まるっと

縄文

100%!

2018年 はるのてんし

「JOMON ワンダーランド」

4月21日(土) ~ 6月17日(日)

~ JOMON ワンダーランド ~

むかしの人が住んでいたお家やゴミ捨て場、死んだあとのお墓などの暮らしのあとが残されている場所を遺跡と言います。この遺跡を発掘調査をすると、当時の人々の生活が分かってきます。

それでも、やっぱりむかしむかしのことなので、分からないことも不思議なことも、たくさんあってナゾだらけ。『まほろん』では、そのナゾを解くために研究を続けています。

「動物を狩る、木の実や植物などを集める、魚や貝などをとる」ことで暮らしていた縄文時代が、どうして長い間続いたのでしょうか？

食べ物や道具、ムラでの生活を通して、縄文時代の人々のくらし

JOMON ワンダーランド を見てみましょう。

ようこそ、JOMON ワンダーランドへ。

ANIMAL

土器に付いていた動物のカオ▼
(富岡町本町西A遺跡)



FUNE

▲木をくりぬいて作ったフネ
(新地町双子遺跡)



HISUI



◀ヒスイで作った大きなネックレス
(石川町七郎内C遺跡)

DOKI

▲縄文ドキ
(本宮市高木遺跡)



KOKUYOSEKI

黒曜石で作ったヤのサキ▶
(相馬市荻平遺跡)



石で作ったオチンチン▶
(磐梯町角間遺跡)



KAO

▲土器に付いていたカオ
(磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡)

SEKIBOU



DOBAN

▲ねん土で作ったカオ
(小野町沢目木B遺跡)
▼ねん土で作ったイヤリング
(浪江町田子平遺跡)



MIMIKAZARI



～縄文のムラのはじまり～

❶ かしむかし、まだ寒かった1万6,000年前ころには、縄文人は食べ物をもとめて移動生活をしながらも、土器を使い、弓矢で動物を狩る生活をはじめたようです。

今から1万年前ころには、同じ場所で生活できるおうち(竪穴住居)を作り、みんなで集まって生活するようになります。これがムラのはじまりです。

大きな縄文土器や重い石の道具は、移動する生活には、むいていません。これらの道具は、同じところに住む定住生活から生まれた道具なのです。



～縄文のムラのくらし～

❶ 万1,000年前ころから、少しずつ気温は上がりはじめ、ムラのまわりの植物もあたたかい気温にあうものによって変わってきました。秋になると紅葉してドングリなどの実をつけ、冬には葉が落ちる木々の森が広がりました。植物の変化とともに、森に住む動物も変わりました。

ムラのまわりの森が、豊かになっていきました。

少しずつ人口が増えて、ムラは大きくなります。ムラの中は、家をつくる場所、みんなが集まる広場、道やゴミ捨て場、お墓などに区分されていました。



まほろん 野外展示「縄文時代の家」

* 縄文時代の前は、「旧石器時代」と呼ばれているよ。まほろんの足元でも、2万年以上前の石器が見つかっていて、まほろんに展示されているよ。

* 福島県域では、今から5,400～4,500年前ころが縄文時代のなかでムラが最も大きく、たくさんあった時期だということが分かっています。

なぜ?・どうして? がいっぱい! 「縄文時代の

7つのふしぎ?」

魅力いっぱいの縄文時代、
ふしぎの世界
『JOMON ワンダーランド』
へ出発!



1 やさしいいっぱい縄文フード?

縄文時代は、生きること、食べ物を集めることが仕事。自然の恵みを大切に、季節に合わせて生活していたよ。森や川、海では、たくさんの木の実や野菜、魚をとって生活していたよ。

でも、この自然の恵みを取りすぎることでなく、必要な分だけ集めていたんだ。バランスよく食べることは、自然にも縄文人自身にもやさしかったんだね。



（南信濃県小池田遺跡）
ねん土で動物やキノコを作って、たくさんとれるようにおねがひしたのかな。

2 縄文土器ってなに?

縄文時代に使われた土器を縄文土器と言うよ。表面に、縄を転がしたようがついているからだよ。土器を観察すると、土器の外と内に黒くなっているものが見えるよね。外側の黒いのはスス。木を燃やして黒くなったところ。内側の黒いのはコゲ。お料理を煮込んでこけたところだよ。スープを煮込んだり、ドングリのアク抜きなどをした、大活やくの調理具だね。現代で言うと、お鍋の役割だね。



こんな感じで、お料理したのかな

かんざつ POINT



（滋賀県甲子平遺跡）



（小野町西田中遺跡）

土器の外側に付いたススと、内側に付いたコゲは、どのようにちがうかな?
かんざつしてみよう!

3 縄文土器の形ともよう

縄文土器を観察すると、同じ形やもようはないことに気づいたかな? 1万年以上も続いた縄文時代のなかで、縄文土器は、少しずつ形やもようが変化していったんだよ。トンガリ底の土器から、平らな底の土器に変化していったよ。かんたんな形の土器から、大きな飾りがついたり、人や動物の形の飾りのついた土器が作られるようになったよ。地域によっても、それぞれ好きな形やもようが作られていたよ。言わば、「ご当地もの」だね。



大きな皿のような土器。

▲まるでヤカンみたいな土器。

いろいろなかたち かんざつ POINT いろいろなもよう



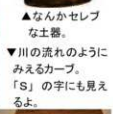
▲これぞ、トンガリ底の土器。



▼アミアミだって、縄文土器にあるよ。



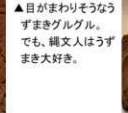
▲なんかせレブな土器。



▼川の流れるように見えるカーブ。「S」の字にも見えるよ。



▲ねん土もきをはりつけて、もようをつくります。

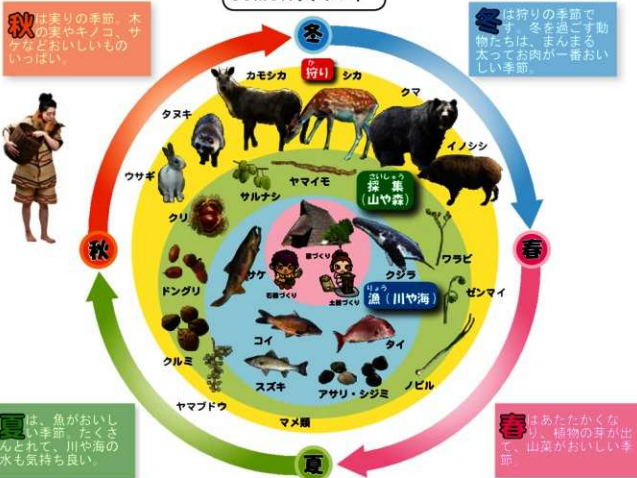


▲目がまわりそうなくずまきグルグル。でも、縄文人はうずまき大好き。

1. じょもメモ

- 土器に付いたコゲを調べると、
- ①何年前に使われた土器なのか?
- ②何を煮炊きしていたのか? が分かってきます。
- まほろんで調べた縄文土器では、植物を多く煮炊きしていたことがわかってきました。福島県内の縄文人は、植物メインのお食事を多く食べていたようです。

JOMON 人の1年



秋はまりの季節、木の葉やキノコ、サナギなどおいしいものいっぱい。



夏は、魚がおいしい季節、たくさんとれて、川や海の水も気持ちいい。

春はあたたかくなると、植物の芽がでて、山菜がおいしい季節。

*発掘調査で見つかった縄文人のホネを調べたら、どのような食べ物を食べて体がつくれたのか(成長)が分かってきました。

*これまでの研究で、「いつ」・「どこに」・「どんな」縄文土器があるのか、日本全国でわかるようになってきました。

4 石をえらぶの？

石を利用した道具を石器と言うよ。石器には、やりや弓矢などの狩りの道具、ものを切ったり穴をあけるための道具、木を切るオノやクワなどの土木具、木の実や植物をお料理する道具など役割が分かっているんだよ。

それこれらの道具に合わせて、使う石を選んでいたよ。縄文人は、「石を見分ける」能力があったみたい。割るとガラスのように鋭くとかる石や平らに割れる石、カタい石など、石の性質をよく見て道具を作っていたことがわかるよ。



木の実などを割ったりつぶしたりする道具(石ざら・すり石)
(福島県磐前町遺跡)



木を切る道具(石オノ)
(レブリカ)



黒曜石の弓矢の先
(福島県磐前町遺跡)



縄文時代のせつちやくざい!



アスファルトが付いた弓矢の先
(宮城県野田川遺跡)



土器に入ったアスファルト
(宮城県野田川遺跡)



遠くからあつめた縄文人

5 はこぶ・集める・交流する

石がムラの近くにない時は、遠くから手に入れたよ。たとえば、アクセサリーで使うヒスイというミドリ色の石は、新潟県の糸川川地方で見つかる石だよ。矢の先やナイフに使う黒曜石は、新潟県や栃木県那須地方からはこんだみたい。

どのようにして集めたのかな? 歩く! 走る! 発掘調査では、丸木舟が見つかることもあるよ。舟だと、重くてもたくさんを運ぶことができるね。

石器からは、このようにして各地のムラとの間で交流があったことがわかるんだよ。



新潟県のヒスイで作ったネックレス
(宮城県・種市代町法正堂遺跡)



コハクの玉
(天栄村七郎内川遺跡)



クワタシはだあれ?

6 土偶は、だあれ?

ドグウは、「ねん土」で作られた「人の形をしたもの」という意味で土偶と書くよ。縄文時代に作られたよ。土偶のモデルは、だあれ?

観察すると、おっぱいが見えるよ。ポッコリおなかの中に赤ちゃんがいるようにも見えるね。でも、人ではなくて神様のようなモノをイメージしたとも考えられているよ。実は、土偶のモデルは、はっきりと分かってないんだ。暮らしや家族の安全について、おいのりするため、作った道具かもしれないね。

2. じょもメモ

ドグウには、当時の縄文人のくらしや、すがたをイメージできるヒントが、かくされているみたい。アクセサリーやヘアスタイル、服のようなものもあるよ。



顔に線があるよ。



耳に何かついているよ?



せっきをくついているぞ!!



北海道で見つかるアオトラ石でできた石オノ
(滝江町中平遺跡)

かんざつ POINT

いろいろなドグウ

およそ 7千年前
古いドグウのはじまりは、顔が分ける、おっぱいがあるの。

およそ 6千年前
顔がへこんでいるぞ! 平べったくて、大きく膨らんだよ。

およそ 5千年前
立つドグウがどうしよう! 目・はち・くちがはっきりしたね。

およそ 4千年前
あたまの形がハートやさんかく、足はしっかりガコマダ(笑)

およそ 3千年前
目や顔のざざりがオモシロい、かたべルトもあつたり... 平らな粘土板に顔がついている土版もどうじょう!

7

ホント?

縄文時代の歴史は変わる?



ボクたちが習っている歴史とお父さんやお母さんが子どものころ習った日本の歴史とは、ちょっと変わってるんだよ。理由は大きく2つ。

- ①発掘調査で、新しい発見があったから。
- ②新しい科学技術によって、今まで分からなかったこともわかるようになってきたから。

たくさんの研究で、新しい発見があり、「歴史は変わる」んだね。キミたちが大人になった時には、さらに変わっているかも・・・



たとえば…
JOMON チェンジ 1

これまで縄文時代は「狩り・採集」で生活していたと言われていたけれど、最近では、大きな実のなるクリやダイズなどを選んで育てていたらしいこともわかってきたよ。石のスコップでほったあなに、たくわえていたみたいだよ。縄文時代が長くつづいたナゾが少しずつとけてきたね。



うすく平らに削れる石だね。

土をほる道具
(石のスコップ)
(南相馬市赤業遺跡)

たとえば…

JOMON チェンジ 2

縄文時代は、1万2,000年前ころからと言われていたよ。最近では、1万6,000年前ころには、縄文土器が使われていたと考えられているよ。

1万6,000年前

1万2,000年前



科学的に調べることによって、土器が使われた年代が分かってきたからなんだね。



まほろん せきち館長から ～キミたちにメッセージ～

縄文時代は、自然を上手に利用しながら、知恵と技術で生活していました。ボクたちは縄文人から、自然を大切にすることを学びながら生きています。

キミたちには、縄文人の生活はどのように見えましたか?

縄文人は、どのようなことを考えて暮らしていたのでしょうか? 大変なことも楽しいことも、きっととてもかっこいいことだってあったでしょう。

歴史も常識も、時代や地域で少しずつ変わります。また、科学技術の進歩によって、新発見もどんどん出てくると思います。歴史を学ぶことは、これからを生きるキミたちにとって、とても大切なことです。キミたちが大きくなって、新しい研究や発見をすることで、歴史を、そして教科書すら書き変えることができるかもしれません。なんだかワクワクしてきませんか?

(表紙)

左上: 磐梯町・猪苗代町法正原遺跡出土ヒスイ製大珠 国指定重要文化財
右上: 下郷町南倉沢遺跡出土獣面突起
左下: 郡山市荒小路遺跡出土土偶
右下: 磐梯町・猪苗代町法正原遺跡出土土器 国指定重要文化財

2018 はるのてんじ

JOMON ワンダーランド

(平成30年4月21日発行)



原稿期間: 平成30年4月21日～6月17日
編集・発行: 公益財団法人福島県文化振興財団
〒981-0835 福島県白河市白浜一丁目86
TEL: 0248 (21) 0700 FAX: 0248 (21) 1075
ホームページ: まほろん